

# 緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



## No.199

発行:令和4年12月1日



## 講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

### 「多肉植物でクリスマスリース作り」

とき 令和4年12月4日(日) **2,500円**

午後1:00~3:00 定員10名

講師 フラワーマスター 山本 裕美 さん



### 「コキアでほうきを作ろう」

とき 令和4年12月17日(土) **500円**

午後1:00~3:00 定員10名

講師 緑のセンター職員



### 「マクラメ編みでフランチハンガー作り I」

とき 令和4年12月18日(日) **500円**

午後1:00~3:00 定員5名

講師 緑のセンター職員



### 「マクラメ編みでフランチハンガー作り II」

とき 令和5年1月21日(土) **500円**

午後1:00~3:00 定員5名

講師 緑のセンター職員



**講習会の開催予定** (講習会のお知らせ等につきましては、緑のセンターだより、市民広報等でお知らせいたします)

令和5年2月~3月に予定の講座

\*ハーブ講座 \*果樹の剪定と栽培管理

\*神楽岡公園 冬の自然観察会 \*フラワーアレンジメントづくり



### 神楽岡公園 歩くスキーコース

歩くスキーセットの無料貸出

①スキー板 ②スキーポール ③スキー靴(サイズ調整のため、靴下ご持参ください)

時期:12月下旬ころを予定

(積雪、コース状況などは電話でご確認ください)



### 年末年始のお知らせ

いつも緑のセンターをご利用いただきありがとうございます。2022年12月30日(金)~2023年1月4日(水)まで休館いたします  
新年は1月5日(木)より開館しますので2023年もどうぞよろしくお願ひいたします



## 展示会のご案内

「神楽岡公園の四季写真展」 \* 2022年12月 1日(木)~12月25日(日) \* 作品提供:板垣 吉春 さん

「神楽岡公園の自然写真展」 \* 2023年 1月 7日(土)~ 2月26日(日) \* 作品提供:阿久津 弘明 さん

### 【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~3月は毎週月曜日が休館日です。( " )



## 12月の園芸作業

### 1、鉢花・草花・球根類

- **シクラメン**は日光がよくあたる場所に置き、昼間は15~18℃、夜間は8~10℃にします。開花している場合は、液肥(1,000倍程度を10日に1回)を与えましょう。また、花立ちを良くするために花茎は株の中心に寄せ新しい葉は放射線状に下げていく「葉組み」をします。
- **ポインセチア**の生育適温は18~28℃で、8℃以下ではほぼ停滞してしまいます。日当たりの良い場所に置き、開花株には肥料を与えません。
- **クンシラン**は花茎の上りをよくするために10℃程度の低温で水をやらずに管理します。花茎が伸びてきたら20℃前後の部屋に置き、水を与えましょう。
- **アザレア**は10~15℃の場所で育て、40~50日で開花します。開花株はやや寒い部屋の窓辺に置き、鉢土が乾いたらたっぷり水やりをします。開花後は寒い部屋にもどしましょう。

### 2 庭木・果樹類

- 寒さに弱い**西洋シャクナゲ**、**ポタン**、**バラ**などのこも囲いは12月上旬が適期です。
- **ブルーベリー**、**ハスカップ**等の小果樹類は雪による枝折れ防止の冬囲いを行います。

### 3 観葉植物類

- 暖房している室内は空気が乾燥しています。環境の変化を和らげるため、茎、葉に水を霧吹きすると良いでしょう。
- **サンセベリア**は最低7~8℃まで下がる室内では水やりを中止しましょう。過湿になると根腐れ症状で枯死することがあります。

### 4 多肉植物・サボテン類

- **クジャクサボテン**は水やりを中止し、無暖房の室内で凍らない程度の場所で休眠させ、夜間照明する部屋には置かないようにしましょう。花が咲かなくなります。



## 1月の園芸作業

### 1 鉢花・草花・球根類

- **フリムラ**類、**シクラメン**などは無加温の部屋の窓辺で管理します。**シクラメン**は花や葉が傷んできたら花茎を捻ってから抜くと芽を傷めません。
- 寒い部屋で管理した**クンシラン**や**アザレア**は10~15℃の部屋に移すと開花に向かいます。
- **アマリリス**が休眠から覚め、芽が出てきた場合は20℃前後の部屋に移して、水やりをしましょう。
- **ハイビスカス**は雪降り等のため、光線不足で花つきが悪い時期です。伸び過ぎている場合は切り戻して側枝を出させましょう。



### 2 庭木・果樹類

- 樹幹や枝に積もった雪は払い落とします。
- **ツバキ**、**サザンカ**は玄関などごく寒い場所で管理すると開花します。
- **ピラカンサ**、**センリョウ**なども無暖房(5℃程度)の寒い部屋で管理します。

### 3 観葉植物類

- 日照時間が短くなるのに加え降雪日が多くなり、室内の植物は日光不足になります。また、暖房による空気の乾燥を嫌うのでこまめに霧吹きするか、葉面を濡れた布で拭きましょう。低温で落葉することもあるので、15℃以上で育てて肥料を与えません。低温過湿を嫌う種が多いので置き場所に注意し、種類にあった水やり管理をしましょう。

### 4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**の花が終わった株は、最低5℃位の明るい部屋で、乾燥気味に管理しましょう。
- **アテニウム**(砂漠のバラ)や**クラッスラ**属(**カネナリキ**)、**アロエ**などは窓辺で日光に十分に当てて、水やりを控えましょう。

# 植物の病害虫

## その70「家屋に浸入してくるカメムシ対策」

### 1 寄生しやすい植物

ヤマハンノキ、ミズナラ、ブナ、シラカバ、タラノキなど色々な樹木につきます。

### 2 被害

晩秋に多数の成虫が家屋に飛来し、視覚的に不快だけでなく、強い悪臭をはなちます。また洗濯物などに悪臭とともにシミを付けて汚染します。北海道で最も被害が多いカメムシです。

### 3 生態

年1回の発生で、成虫で発生します。雌は初夏に産卵し、寄生の葉や茎上に1卵を生み付けます。新成虫は8～9月に発生し、10月に集合します。交尾後の成虫は、晩秋の晴天温暖な日に一斉に飛び立ち、越冬場所を求めて日当たりの良い樹木、建物の外壁面に飛来します。3mm～数cm程度の隙間を見つけて潜り込む行動を繰り返し、やがて窓の隙間や換気扇口、給排気口などから屋内に侵入してきます。

### 4 防除方法

- 粘着テープ
- 不快害虫スプレー、カメムシエアゾール(屋外専用)
- 凍結ジェットスプレー
- スミチオン乳剤を散布(花き類・観葉植物、樹木類、)
- ペットボトルでの捕獲容器(食器用洗剤を入れる)



スコットカメムシ



捕獲容器

## ちょっと楽しい講座のご紹介

### 緑の講習会「花、小果樹、野菜の病害虫と防除講習会」から

各家庭で管理されている樹木や花き、菜園などの植物には、病気や害虫によって様々な被害を受けることがあります。本講座は、植物に発生する病害虫の発生原因や予防法などについて学ぶ講座です。新型コロナウイルス感染拡大・防止の影響から、3年ぶりの開催となり、参加者には手指消毒や体温の計測などをお願いし、ソーシャルディスタンスと十分な換気に気をくばりながら開催しました。

講座は当緑のセンター相談員が担当し、小冊子やふんだんな画像を用いて、丁寧に解説しました。

例年発生する、イチイ(オンコ)やツツジ類などに発生するカイガラムシ類と防除時期、ブドウの葉が火ぶくれ状になるブドウハモグリダニ、なすの半身萎凋病、きゅうりのうどんこ病、りんご、なし、すももなどのモモシンクイガ、その他発生しやすい病害虫の発生原因や環境、予防法などを学習しました。

薬剤を使用する場合は、防除効果が高く、人畜毒性は低い薬剤を紹介し、使用法も学習しました。例えば、商品名「カリグリーン」は非化学農薬でとくに発生した「うどんこ病」に効果が高い薬剤です。

「今まで、毎年変わった症状が出て、対処法がわかりませんでした。これから自信を持って管理できます。とても勉強になりました。」など多くのお声がけをいただきました。





## アデニウムを楽しむ

アデニウムの別名は「<sup>さばく</sup>砂漠のバラ」。①<sup>さばく</sup>砂漠に生えている植物。②咲いた花がまるでバラのように美しい、ことが名の由来になっています。暑さには強いものの寒さには弱い<sup>たにく かいこん</sup>多肉(塊根)植物の仲間なので、冬の管理は特に気配りが必要です。

### <冬の管理のポイント>

**置き場所** 暖かい日差しを好むので、十分に日光を当てましょう。しかし、旭川の冬の窓際は温度変化が大きいので最低温度が10℃以上を確保できる工夫が必要になります。

◎ 冬期間でも15℃以上を保つと開花を続けます。◎ 断水して7～10℃を保つようにすると落葉して<sup>かん そうきゅうみん</sup>乾燥休眠し、越冬します。◎ 0℃以下になると枯れてしまいます。

**水やり** 休眠期も草花のように頻繁に水やりすると根腐れして枯らす原因になります。土が十分に乾いてから、たっぷり与えるのが基本です。受け皿に水を溜めてもいけません。

**施肥** 肥料は休眠に入る秋から翌年春までは一切与えません。与える時期は生育期の3月中旬から8月中旬まで。リン酸成分の多い液肥を1,000～2,000倍に薄め、2週間に一回与えます。

### <その他のポイント>

**植え替え** 1～2年に一回を目安に植え替えます。4～8月が最も適した時期ですが、植え替えの際は、数日前から水を切り、土を乾燥させてから行うと作業がしやすく、回復も早いものです。

**整形** <sup>しゅかん</sup>主幹と枝が間伸びしてバランスが悪くなると<sup>せんてい</sup>剪定が必要になります。幹を太らせたり、必要に応じて<sup>じゅこう</sup>樹高をコンパクトに保つため、葉のない所で<sup>せんてい</sup>強剪定(胴切りともいう)する時期は7月です。その際、アデニウムの<sup>じゅえき</sup>樹液には毒があるので、<sup>じゅえき</sup>樹液に触れないように配慮して行います。

**増やし方** アデニウムは<sup>さ</sup>挿し木で増やすことができます。5～6月頃に剪定した枝を挿し木すると数週間で<sup>はっこん</sup>発根してきます。ただし、挿し木で殖やした場合には、<sup>かけい</sup>下茎の部分は<sup>ふくらみ</sup>膨らみにくくなります。

## 展示室の植物 (105)

### オオタニワタリ

学名: *Asplenium antiquum* チャセンシダ科 チャセンシダ属

<sup>おおたにしやうへい</sup>大谷翔平選手は今年も<sup>アメリカ</sup>米国の大リーグで大活躍しましたが、<sup>いさい</sup>緑のセンターの温室にも<sup>ちやくせい</sup>異彩を放つオオタニワタリがあります。温暖な気候を好み、野外では主に岩や樹に着生して育つシダ植物の仲間、原産地は日本・韓国・台湾。日本では主に沖縄地方に自生しています。葉を觀賞する以外には、天ぷらや炒め物、煮物などにして食べると美味しいとのことですが、実は<sup>ぜつめつ きぐ</sup>絶滅危惧種(IB類)に指定されていることもあり、自生する姿をめったに見かけることはないそうです。

学名のアスプレニウムは、チャセンシダ科に属する植物の総称で世界中には約700種類が存在し、日本では沖縄地方を中心に約30種が自生しているといわれています。

